

心への贈り物

For the Heart

20世紀は“モノの時代”で、いかにモノを豊かにするかに主眼が置かれていたと思っています。人間というのは常に欲求不満で、いつでもどこでも欲求を満たしたいという思いを持っています。20世紀とは、そうした欲求不満を“モノを豊かにする”ことによって満たそうとする時代だったのではないのでしょうか。ところが、欲求不満を“モノを豊かにして満たそう”とするあまり、環境破壊を招き、情報不安や種々のデバイドを招いてしまったのではないかと思います。

しかし、21世紀は違います。ユビキタス・ブロードバンドによるネットワーク基盤が確立していくと、これまでかなわなかった、距離や時間を超えて人間どうしの心のつながりを生み出すことが可能になります。寸断化された人間関係に新しいコミュニティが再構築され、精神的な連結もスムーズに行われていくことが期待できると思います。

つまり、時代が、“モノの豊かさで満足させる時代”から、“心の豊かさで満足させる時代”にシフトすることだと思っています。そして、人と環境に優しい世界が作り出されるのだと思います。

こうしたことに何が大きく貢献していくかといえば、デジタル技術とネットワーク化です。まずは、五感を駆使しながら存在を感じさせないネットワークの構築が必要です。ほんとうに会いたい、ほんとうに話したい、ほんとうに欲しい情報を望むときに直ちに与えてくれるネットワークは、デジタル技術の粋を集め、かつデジタルを感じさせないネットワークだと思います。

しかしながら、ネットワークが優れものでも、生活の基本である衣食住に不安があったり、健康上や精神的な不安があっては、心の豊かさは得られません。更に、不安がなくても、何か訴えることがなければ心の豊かさにはつながりません。“心の豊かさによる欲求不満の解消”が21世紀の課題なら、それは、“デジタル技術とネットワーク化によりすべての不安を取り除き、心を暖かく刺激する努力”と言えるのではないのでしょうか。

研究開発や製品化にあたり、“この完成はどんな不安をなくしてくれるのか、どんな暖かい刺激を与えてくれるのか”，という観点からの努力が傾注されることを望みます。そのことにより、東芝製品がほんとうの意味で“心への贈り物”となるはずですから。東芝の“心への技術”に期待しております。



安田 浩
YASUDA Hiroshi